

修成建築設計競技 特別賞

第 15 回修成建築設計競技で建築科 3 年生の池田 創紀さんが特別賞の「日本建築士事務所協会連合会会長賞」を受賞しました。

課題は「二刀流な家」です。建築的視点から、あれもこれもひとつの建築物の中で、欲張りな暮らし方やしくみ、構造などについてのアイディアを提案してくださいというものでした。この作品では、「家」とこの家に住む「人」それぞれが二役をこなすという設定のもと、提案を行いました。

2つで1つ 4つで1つ

■設計士観
何か物業を同時にうまくこなすことができるのは決して人だけではない。「家」も人と同じように何かを同時にうまくこなすことができるのではないかと私は考える。そこで私は人と家、両方が2つの物業を同時にうまくこなすことができる家を実現する。家は、人が住むこと、自然に寄り込むことの二刀流。人は、会社員とパン屋の兼業の二刀流。二刀流が2つ、4つで1つの家である。

家 ○ 住居 × 自然 = 二刀流

人 ○ 会社員 × パン屋 = 二刀流



■居住者

- ・夫婦 平日は会社員
- 日曜日はパン屋を営業
- ・息子 自然の中で遊ぶことができる



配置図兼1階平面図 S=1/100



地階平面図 S=1/100

住居

人が住むための住居ではあるが、自然との二刀流である。LDKと書斎室をつなぐ廊下に屋根はなく、金をさして移動しなければならない。手前ではあるが、その分揺れた日は無事に気持ちいい。廊下に向かって書斎室がガラス張りになっているので、窓際のコミニケーションが取りやすくなっている。窓際の両側はすべて壁になっているので、お客さんと住人の住居部分が交わることなく、プライベートが守れるようになっている。

パン屋



夢は幼い頃パン屋になるのが夢だった。けれど、大人になるにつれて幼い頃の夢は忘れていき、会社員として忙しい日々を送っていた。結婚して子供が生まれ、忙しくも幸せに暮らしていたある日、ふと夢に将来の夢を語る我が子を見て、自分が幼い頃に抱いていた「パン屋」という夢を思い出した。そして、愛着のある今の仕事を続けながら、ずっと趣味として続けてきたパン作りも仕事にすることを決意した。



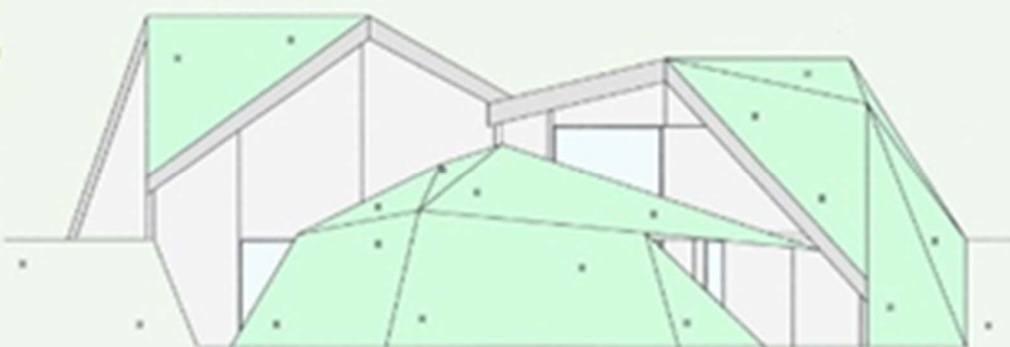
地階部分にはパン屋の原形を設けた。原形はオープンではなくパン窯を用いることで、オープンに比べてパンがふっくらとした仕上がりになる。また窯自体が石やレンガ、土などで作られており、窯の材料も捨てられるような木を使用するため、より自然に近い環境である。

1階部分の東側にはパン屋の店舗を設けた。東側道路の壁面をすべて窓にしたことで、外から見た時の見映えが良い。また外からでも店内を全体的に見渡すことができ、東側にある階段から眺め立てのパンの匂いが漂ってくることで、視覚的にも嗅覚的にも人を呼び寄せる効果がある。



自然

家は地面が盛り上がり、建てられたかのように隆起している。自然の中で遊ぶことが好きな子どもは、家の屋根を走り回り時には地下に行き、探検無尽に遊ぶことができる。



北側立面図 S=1/100



断面図 S=1/100

屋根全体が芝におおわれており、地中に埋められたような、家と庭（緑）が一体化したような造りの家になっている。そのため、夏は涼しく冬は暖かく過ごすことができる。

